

年中児保育案

ほし組 男児 18名 女児 17名 計 35名
担任 中村 共芳 成川 梨恵

1 幼児の実態

子どもたちは、「〇〇ちゃんはまだかな?」「〇〇君が来たら一緒につくるんだ」などと、友達と遊ぶことを楽しみにして登園する姿が見られる。

保育室では、役割を決めてごっこ遊びをしたり、自分のつくりたいものをイメージし、必要な材料を選んで組み合わせながらつくり出したりしている。また、ネコやお姉さんなどの役を決めて、話し方や動きなどを工夫してその役になりきって遊んでいる。また、ソフト積み木を組み合わせでステージをつくり、手づくりのマイクをつけて演奏会を開くこともある。曲紹介のカードや観客用の席を用意するなど、歌う以外の準備も分担しながら行っている。「コンサートが始まります」の声が掛かると、それまで他の遊びをしていた子どもたちが観客としてやってくるなど、遊びの種類を越えた子ども同士のかかわりが見られるようになってきた。また、様々な材料を使って、自分のイメージするものをつくり上げようとする姿も見られる。手伝ってほしいと思うところや使いたい材料を教師に伝えてくることもある。友達がつくっているものに興味を示し、同じものが欲しいと、友達につくり方を聞きながら一緒につくったり、つくってもらったりすることもある。

プレイルームでは、大型積み木を組み合わせで自分たちの家や基地をつくり、その中で過ごす姿が見られる。時には積み木の家がイヌの家になり、自分たちがイヌとなり、散歩や食事などをすることもある。他には、段ボールや折り紙でつくった魚などを海に見立てたビニールシートの上で泳がせたりそれらの魚を捕まえたりして楽しんでいる。男児はたたかいごっこも好きで、ヒーローや恐竜など、自分のなりたいものになりきって遊んでいる。その中で、教師がその都度言葉を掛けることで、本当には当てないような力の加減ができるようになってはきているが、夢中になりすぎて本気になってしまうこともある。

園庭では、砂場で砂を型抜きして皿に盛り、パーティーをしたり家族ごっこの料理をつくったりしている。バケツに砂を入れ、木製遊具や滑り台などに運び、その場所を家にして、ごっこ遊びを始めることもある。料理をつくる人と買い物に行く人などに分かれ、それぞれが役割を決めて遊びを進めている。固定遊具を使った遊びでは、友達に刺激を受け、自分もやってみようとする子どもの姿が見られる。

気の合う友達ができ、誘い合い刺激を受け合いながら、それぞれが好きな遊びを楽しんでいる子どもたちである。

2 遊びの価値とねらい

子どもたちは、自分の思いを形にしたり、友達と考えを出し合い、一緒につくったり、誰かに見てもらったりすることの楽しさを感じ始めている。

ごっこ遊びでは、役割を分担したり、考えを出し合ったりすることで、友達同士のかかわりが深まっていく遊びとして大切にしたい。コンサートやパーティーを開きたいという気持ちから、どういったものがよいか、という考えるきっかけとなる。教師も一緒になり、互いの考えを伝え合うことを通して、友達と考えを出し合って、一緒に遊びを進める楽しさを感じていくことへとつなげていきたい。

つくって遊ぶでは、こんな風にしたい、というイメージを形にしていくおもしろさを感じられる遊びとして大切にしたい。友達と同じものをつくりたいこともよくあるので、つくってもらったり、つくり方を教えてもらったりすることで、ものを通して友達とのかかわりも大切にしたい。また、動物やヒーロー、ヒロインになりきって遊ぶ際にも、つくったものを使うことで、なりきる楽しさを感じることができる。こうしていろいろなものをつくり出すことを通し、遊びに必要なものを考え、つくり出し、遊びを進めていくことへとつながっていくと考える。

これらの遊びを通して、つくりあげる喜びや遊びのイメージを共有するおもしろさを、友達と一緒に遊ぶことでより強く感じられることに気付いていくと考える。そうして一緒に遊ぶ楽しさを感じていくことで、友達の思いに耳を傾けたり、受け入れたりして、共通の目的に向かって自分たちで遊びを進めていくことへとつなげていきたい。

3 この期の保育について

(1) ねらい

- 気の合う友達とかかわり合って楽しく遊ぶ。
- 秋や初冬の自然に興味をもち、自分の好きな遊びに取り入れる。

(2) 内容

- 気の合う友達と一緒に遊んだり、自分なりに考えたり、試したりしながら好きな遊びを存分に楽しむ。
- 落ち葉や木の実などの自然物を使って、いろいろな遊びを楽しむ。
- 友達とイメージを伝え合いながら、遊ぼうとする。
- おやつ調理を通して、つくることや食べることを楽しむ。
- 米の収穫や野菜の世話を通して、いろいろや食材に興味・関心をもつ。

4 本日の保育について

(1) ねらい

- 気の合う友達と一緒に、好きな遊びを楽しむ。
- 落ちている落ち葉や木の実に気付き、秋を感じる。

(2) 内容

- 気の合う友達を誘い、自分の考えを試しながら好きな遊びを楽しむ。
- 自分のイメージを友達に伝え、一緒に遊ぼうとする。
- 木の実や落ち葉などを見付けたり、拾ったりする。

(3) 保育に当たって

ア 人とかかわり

- イメージや考えが他の子どもたちに伝わるように、代わりに伝えたり、伝え方を知らせたりする。
- 友達と一緒に遊びたいという気持ちを大切に、友達と遊ぶことの楽しさをより感じられるような雰囲気づくりや言葉掛けをしたい。
- 自分の思い通りにいかず気持ちの整理がついていないときには、子どもの思いに寄り添い、自分の思いを伝えたり、友達の思いを受け入れたりできるようにする。

イ ものとかかわり

- イメージするものをつくることができるように、様々な素材を準備しておいたり、子どもと相談したりしながら適切な材料を選んだりする。
- 自分のつくりたいものがうまくつくり出せないときには、教師が手伝ったり、友達同士で教え合い助け合う場面をつくったりする。
- 道具を正しく使ったり、友達と交代で使ったりできるように、必要に応じて言葉掛けを行う。

ウ 自然とかかわり

- 子どもが見付けてきた木の実や落ち葉などを一緒に見て、子どもの気付きに共感したり、周りの子どもたちに知らせたりする。
- 見付けた秋のものを遊びに取り入れようとする姿を大切に、つくりたいもののイメージに合うものを用意したり提案したりする。
- 花の世話をし、成長の様子や種類による形などの違いに気付き、開花を楽しみにしながら、自然への関心を高められるような言葉掛けを行う。

(4) 保育の流れ

時刻	子どもの活動	教師の援助と留意点
8 : 5 5	☆ 登園する。 ・ あいさつをする。 ☆ 登園時の活動をする。 ・ カレンダーを見ながら好きなシールを貼る。 ・ 連絡帳を出す。 ・ タオルを掛ける。 ・ ランドセルをしまう。	○ 一人一人の子どもたちと笑顔であいさつを交わしたり、楽しく会話をしたりしながら、今朝の子どもたちの健康状態を把握する。 ○ 教師に進んであいさつをしたり、友達が登園することを待ったりする姿を認め、楽しく一日が始まるようにしたい。 ○ 登園時の活動は、自分で進めていく姿を認め見守りながら、自信や意欲が高まるような言葉掛けをする。 ○ 気温や体調を考慮しながら、必要に応じて上着を脱ぐように言葉を掛ける。
9 : 1 0	☆ 好きな遊びをする。 ・ ごっこ遊びをする。 ・ つくって遊ぶ。 ・ 自然と触れ合う。 ・ 砂や水を使って遊ぶ。 ・ 体を動かして遊ぶ。 など	○ ごっこ遊びでは、子どもたちでイメージを伝え合いながら、好きな役になりきって遊ぶ姿に共感する。また、教師もお客になって加わり、楽しい雰囲気高める。 ○ つくる遊びでは、子どもたちがイメージを形にしていける姿を見守り、必要に応じて手伝ったり、友達とのかかわりがもてるようにしたりする。 ○ 自然に親しむ遊びでは、落ち葉や木の実などを拾い、遊びに取り入れながら秋を感じることができるよう言葉掛けをしたい。 ○ 考えが通じ合わずに遊びが止まってしまった場面では、教師が思いを受け止め、互いの考えを整理し、相手の思いに耳を傾けられるようにする。
1 0 : 1 0	☆ 片付ける。 ☆ 降園の準備をする。 ・ 用便を済ませる。 ・ 手洗いうがいをする。 ・ タオル、連絡帳をランドセルにしまう。	○ 気持ちよく遊びから片付けに向かうことができるように、片付けの少し前から片付けが近づいていることを知らせる。 ○ 片付けは、進んで取り組めるように子どもたちを励ましながらか教師も率先して楽しく取り組む姿を見せ、片付けの大切さや片付けた後の気持ちよさを味わえるようにする。 ○ トイレ・手洗いうがいや帰りの身支度を進んで行う姿を認めていきたい。
1 0 : 3 0	☆ 降園時の活動をする。 ・ 指遊びをする。 ・ 歌を歌う。 ・ 絵本を見る。 ・ 先生や友達と一日を振り返る。 ・ 次週のすることについて知る。	○ 降園時の活動では、一緒に歌を歌ったり、絵本を見たりして楽しく過ごせるようにする。また、次週の予定を話題にして、次週への期待をもって降園できるようにする。
1 1 : 0 0	☆ 降園する。	

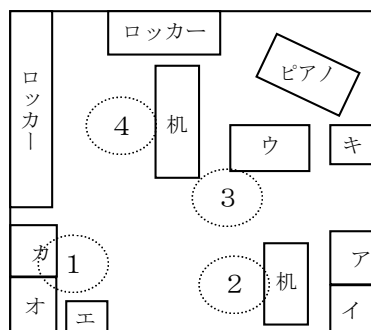
(5) 予想される遊び (○：子どもの姿 ◆：教師の援助)

〈保育室〉

1 ごっこ遊びをする

- コンサートを開き、教師や友達をお客に招いて、好きな歌を歌う。
- お姉さんやネコ、お母さんなどそれぞれがなりたい役になりきって遊ぶ。
- ソフト積み木や布団を使ってベッドやソファをつくり、その場所を家族ごっこの家として、みんなで過ごす。
- ままごとの道具を使って料理をして、自分たちで食事の時間にしたり、お客を招いて料理をふるまったりする。
- ◆ 自分たちが好きな歌を楽しく歌っている姿を見守り、教師も観客となって歌を聴く。また、ステージをつくっていく中で必要な準備等の言葉を掛けたり手伝ったりする。
- ◆ それぞれが役になりきって楽しんでいる姿に共感し、教師もお客となって加わり、子どもたちのもつイメージをみんなで共有できるような言葉かけを行う。

2 つくって遊ぶ



ア：ガムテープ、ひらテープ、モール、ストロー、花紙、紙皿、お面のわっか、色画用紙、ポリ袋 など

イ：空き箱、ロールペーパー芯、カップ、牛乳パック、折り紙など

ウ：セロハンテープ、カセットテープ、ラジカセ、楽器、ブロック、車

エ：ままごと道具（皿、鍋、コップ、コンロ など）

オ：スカート、エプロン、ふとん

カ：ソフト積み木

キ：水槽（金魚）

- 空き箱を使ってヒーローや恐竜など、自分がつくりたいものをつくる。
- 折り紙で好きなものを折ったり、友達に教えてあげたり、折り紙の本を見ながら折ったりする。
- ロールペーパー芯と空き箱を組み合わせ動物をつくり、散歩する。
- お面のわっかにストローをつけてヘッドマイクをつくる。
- ◆ 必要な素材がすぐに使えるように用意しておく。また、つくりたいもののイメージに合う材料を子どもと話をしながら選んでいきたい。
- ◆ つくっていくときに、ガムテープを交代で使ったり、友達のためにガムテープを切ってあげたりするなど、一緒につくっていく姿を認め、子どもだけではできない部分は教師も手伝う。
- ◆ 友達と同じものがつくりたいときなどは、友達同士で教えたり、つくってもらったりするように教師も一緒に言葉を掛け、友達同士でつくりことができるようにする。

4 つくって遊ぶ

- 粘土を薄くのばして型抜きをしてクッキーやケーキなど自分のつくりたいものをつくる。
- 自由画帳にクレヨンで自分の好きな絵を描く。
- ◆ 自分の好きなものを形にしていく姿を見守り、つくり上げた喜びに共感したい。

3 ブロックやパズル、楽器で遊ぶ

- ブロックを使って自分のつくりたい武器をつくり、その武器を使って友達とたたかいごっこをする。
- ピースの形をよく見ながら、パズルを完成させる。
- 楽器を使って音を鳴らしたり、ピアノやラジカセに合わせて歌ったり音を鳴らしたりする。
- ◆ 自分のイメージするものを形にした喜びに共感したい。友達がつくったものを認め、つくったものを使って遊ぶ姿を見守りたい。
- ◆ 一人で、あるいは友達と一緒にパズルをする姿を見守り、どうしても難しそう場合には、一緒にピースを探し、完成する喜びを味わうことができるようにする。
- ◆ いろいろな音に楽しむ姿を見守りたい。聞いている人が気持ちよく聞けるように、きれいな音で鳴らすように言葉を掛けたい。

〈園庭〉

1 砂や水を使って遊ぶ

- バケツに砂や水を入れてスープやカレーなどの料理をつくる。
- 型抜きに砂を入れ、ケーキやプリンをつくる。
- 花や落ち葉などを使って飾りつけをする。
- ○○屋さんやパーティーを開き、つくった料理やデザートを友達や教師にふるまう。
- ◆ お客として加わり、おいしそうにつくれていることを認め、お客にふるまう楽しさも感じさせたい。
- ◆ 同じ砂でも水の量によって型抜きの出来が違うことに気付くことができるような言葉掛けをしたい。

2 自然に親しむ

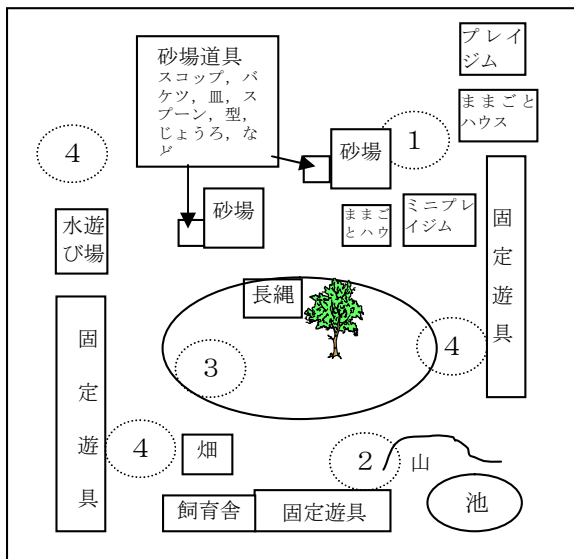
- 色づいた落ち葉や落ちているドングリなどの木の实を拾う。
- 飼育舎のウサギに餌をあげたり、ニワトリやカメの様子を観察したりする。
- 池やその周りで、魚や虫がいらないか探す。
- 土を掘り、幼虫がいらないか探す。
- 収穫した米の脱穀をする。
- 屋根から落ちる雨粒を見たり、容器に落ちる雨音を聞いたりする。(雨天時)
- ◆ 見つけた喜びに共感し、周りの子どもたちにも秋の気配を感じられるようになったことを知らせる。
- ◆ 見つけ、捕まえることができた喜びに共感したい。
- ◆ 折りに触れて小さな虫や魚にも命があることを伝え、命を大切にする気持ちを育んでいきたい。
- ◆ 脱穀をしながら、おにぎりパーティーを楽しみに待つことができるように言葉を掛けたい。
- ◆ 雨に濡れないように配慮しながら、様々な容器を出して音の違いを楽しむことができるようにしたい。(雨天時)

3 体を動かして遊ぶ

- 鬼ごっこやかくれんぼを自分たちなりのルールで楽しむ。
- 長縄を跳ぶ。
- かけっこやリレーごっこをする。
- ボールを使って遊ぶ。
- ◆ 自分たちなりのルールで遊ぶ姿を見守り、必要に応じてどんなルールなのか尋ねることで、子どもたちが共通の認識をもてるようにする。
- ◆ 思い切り体を動かす楽しさに共感し、必要に応じて汗の始末や水分補給などの言葉を掛ける。

4 固定遊具で遊ぶ

- ぶらんこを高く大きく漕ごうとする。
- ロープブランコに乗る。
- 鉄棒で回ったり、登り棒に登ったりする。
- 木製遊具では、電車に見立てて「出発しまーす」「到着ー」と言いながら電車ごっこをする。
- ◆ できるようになったことを繰り返して楽しむ姿を見守りたい。
- ◆ 安全面には配慮し、正しい使い方をするよう、必要に応じて言葉を掛ける。
- ◆ 固定遊具を様々なものに見立てて楽しむ姿を見守り、教師も時に仲間に入りながら、見立てたイメージを共有したい。



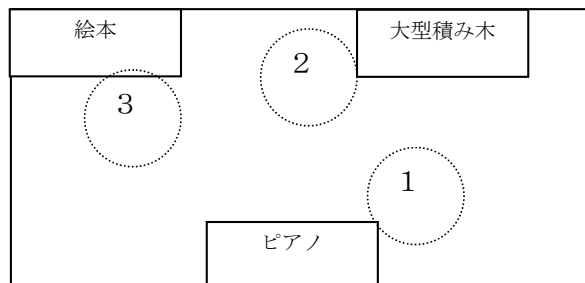
〈プレイルーム〉

1 ごっこ遊びをする

- イヌや恐竜、ヒーローなどになりきって声を出したり、歩き方などの動きを真似たりする。
- 空き箱でつくった恐竜やヒーローを使って、それらを自由に動かし、友達のつくったものと合体させたり、たたかわせたりする。
- お金をつかって、うみ組商店街やおばけ屋敷に遊びに行く。
- 自分の好きな役になりきってたたかいごっこをする。
- ◆ なりきっている姿に共感し、友達とイメージを共有させながら遊ぶ姿を見守る。
- ◆ たたかいごっこでは、本当に当ててしまわないように言葉を掛ける。
- ◆ 年上の友達がしている店に遊びに行き、商品を見たり買ったりすることを楽しむ姿を認め、お金の材料などを用意しておく。

2 大型積み木で遊ぶ

- 大型積み木を組み合わせて基地やホテルをつくる。その中に三角積み木をパソコンやマットのベッドに見立て、個別の部屋などをつくり、その場所で家族ごっこやヒーローごっこをする。
- 大型積み木とビニールシートを組み合わせて、海をつくり、その中に魚やボートを入れ、それぞれ動かして遊ぶ。
- ◆ それぞれがもつ海のイメージを大切に、つくりたいものを形にする手伝いをしたり、素材を選んだりする。
- ◆ 大型積み木は高く積み上げたり、崩れたりしないように安全面に配慮する。
- ◆ 自分たちがつくった自分たちの基地という気持ちを大切に、教師も仲間やお客となって基地の中で過ごし、つくりあげた喜びに共感したい。



3 絵本を楽しむ

- 自分の好きな絵本を一人で見たり、友達と見たりする。
- ◆ 本を見て楽しんでいる姿を認め、必要に応じて教師も子どもと一緒に本を見たり読み聞かせをしたりしたい。
- ◆ 一度にたくさんの本を出しすぎている場合などは、できるだけ一冊ずつ取り出すように、本の取り扱いについても、必要に応じて言葉を掛けたい。